

## 鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 25 年 10 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 10 月の活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1～4）

鶴見岳監視カメラ（大分県）による観測では、噴気は認められませんでした。

15 日から 17 日にかけて現地調査を実施しました。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、前回(2012 年 10 月)と比較して、鶴見岳地獄谷赤池噴気孔周辺や伽藍岳噴気群の地表面温度分布に特段の異常は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図 5）

火山性地震の月回数は 4 回（9 月：1 回）でした。火山性微動は観測されませんでした（9 月：なし）。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳・伽藍岳の状況  
(10 月 30 日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による)

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 11 月分）は平成 25 年 12 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報 10mメッシュ（数値標高モデル）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・地殻変動の状況（図 6、図 7）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

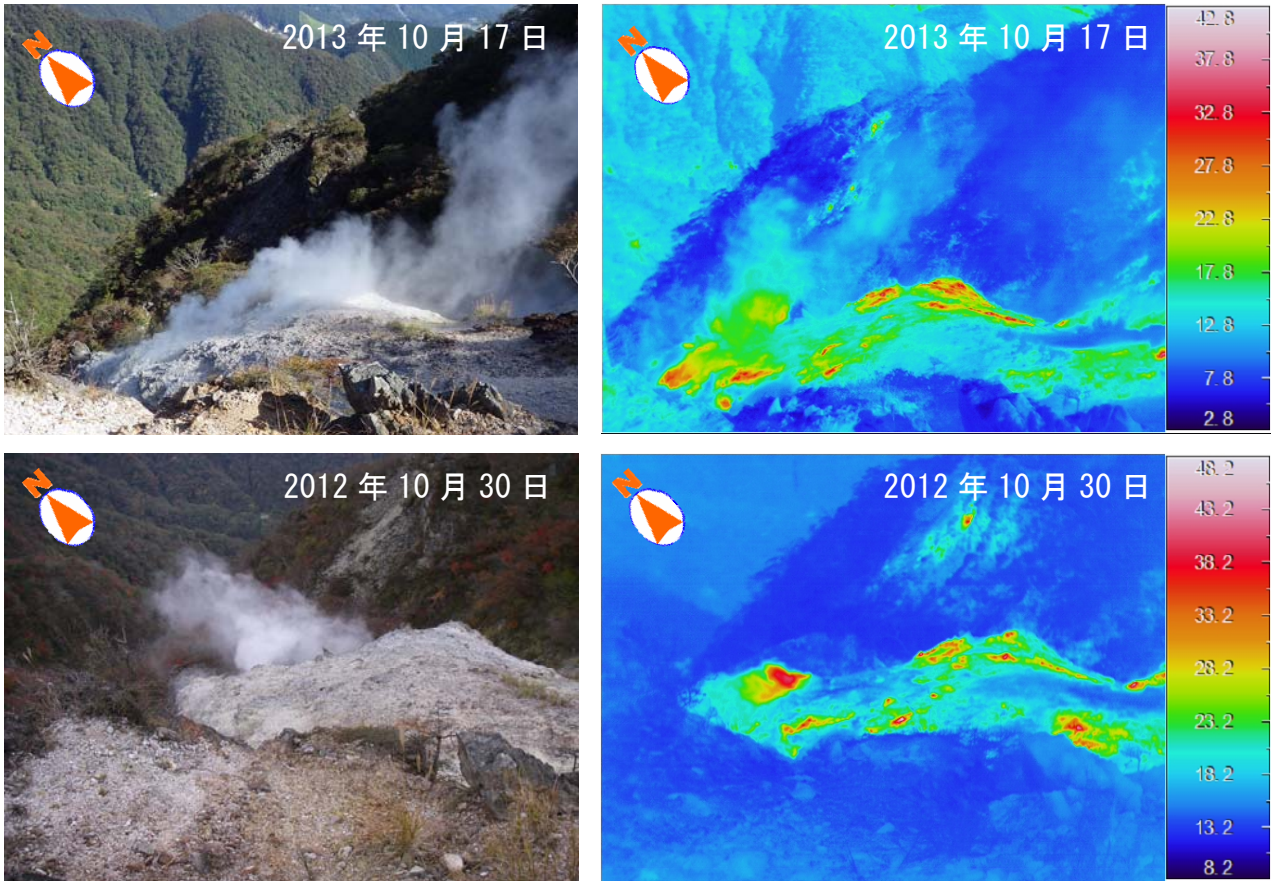


図 2 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳地獄谷赤池噴気孔周辺の状況  
（左：可視画像 右：赤外画像 位置は図 4 参照）

10 月 17 日に実施した現地調査では、前回（2012 年 10 月）と比較して鶴見岳地獄谷赤池噴気孔周辺の地表面温度分布に特段の異常は認められませんでした。

赤外熱映像の温度表示は、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

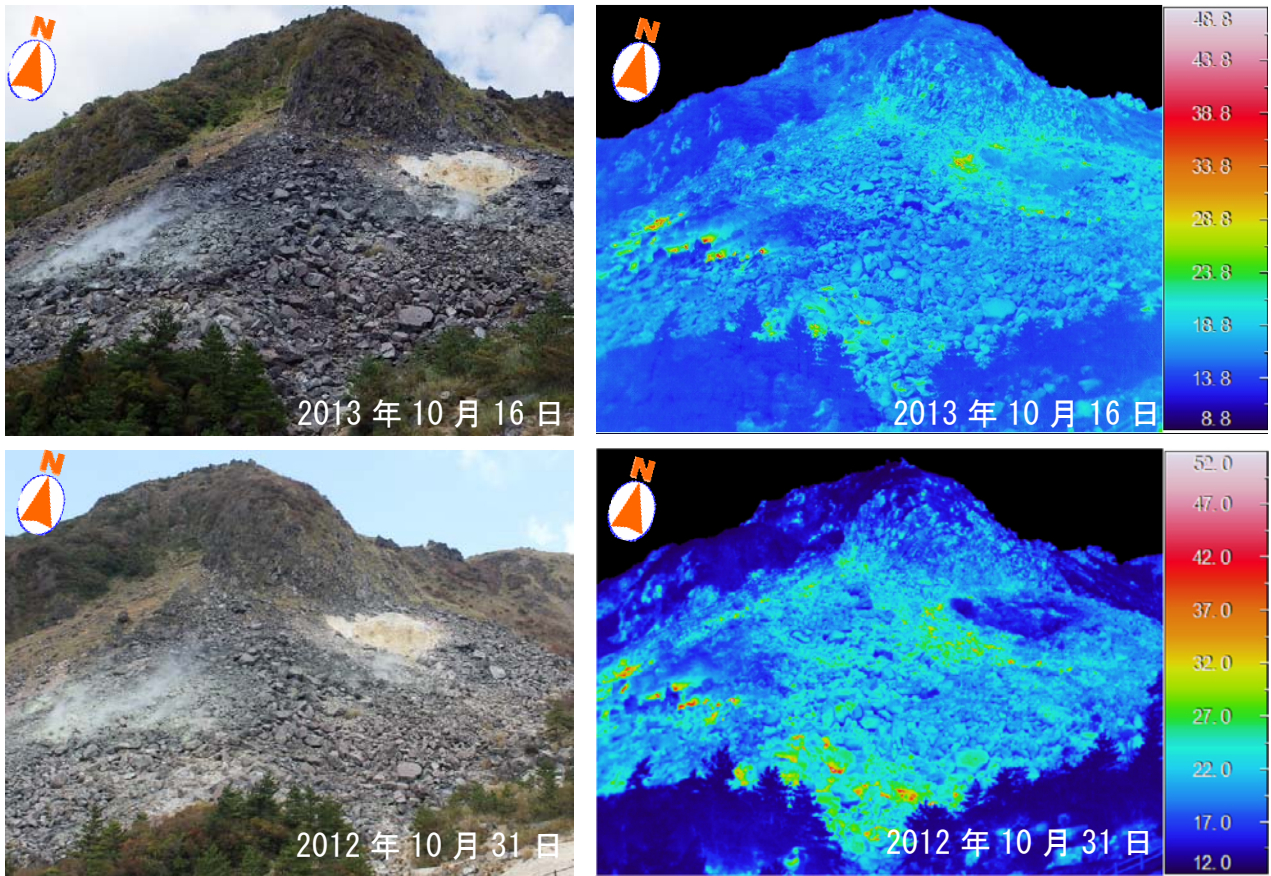


図3 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳噴気群の状況  
（左：可視画像 右：赤外画像 位置は図4参照）

10月16日に実施した現地調査では、前回（2012年10月）と比較して伽藍岳噴気群の地表面温度分布に特段の異常は認められませんでした。

赤外熱映像の温度表示は、熱異常域ではない領域の平均温度で調整して表示しています。

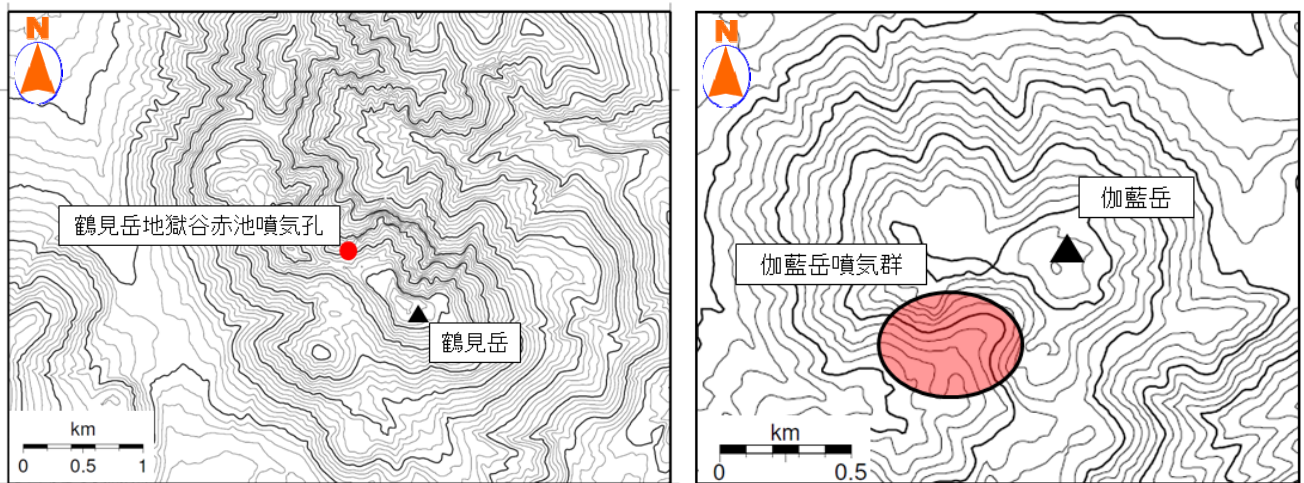


図4 鶴見岳・伽藍岳 噴気孔と噴気群位置

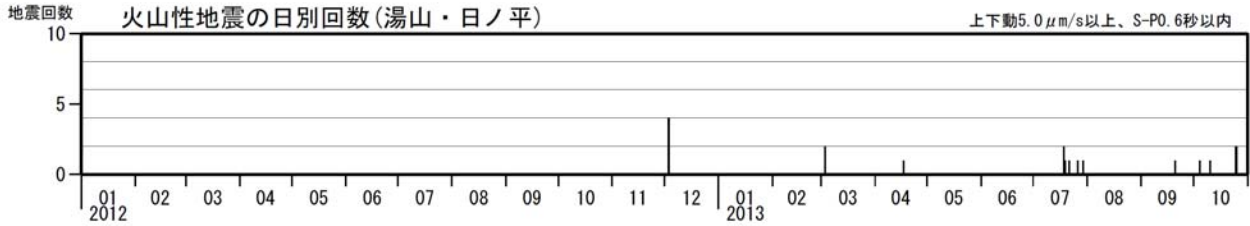


図5 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数（2012年1月～2013年10月）

<10月の状況>

火山性地震の月回数は4回（9月：1回）でした。

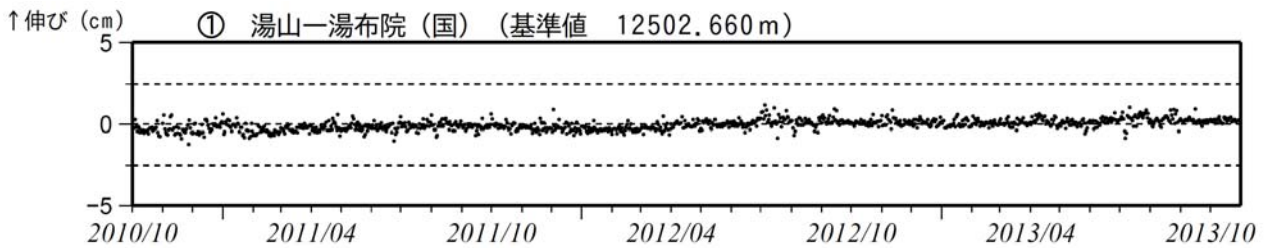


図6 鶴見岳・伽藍岳 GPS連続観測による基線長変化（2010年10月～2013年10月）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図7の①に対応しています。

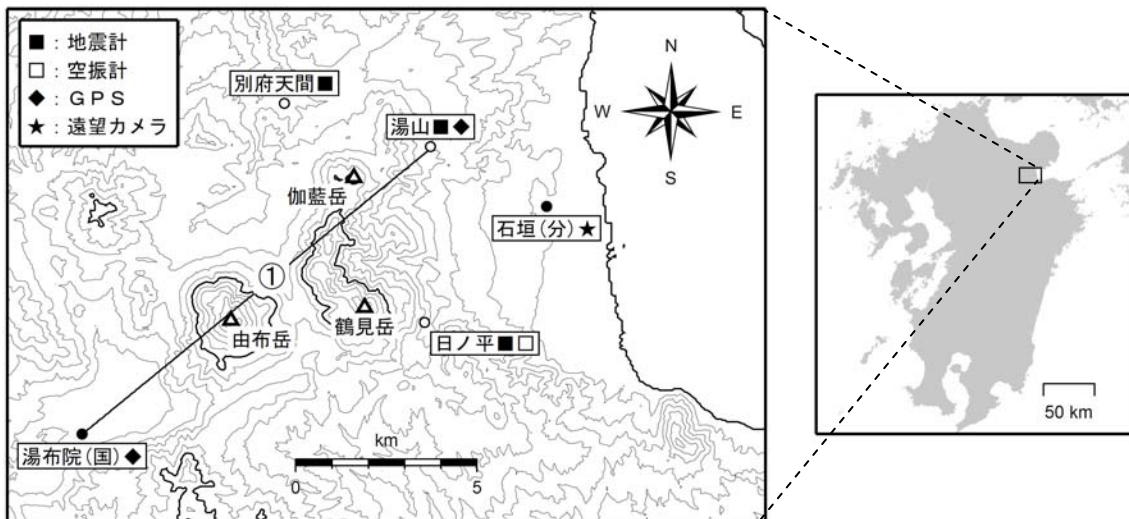


図7 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。